

※発言をそのまま書き起こしたデータを基に、個人情報に関する部分を削除し、文意が通るように修正を行っています。

【イントロダクション】

挨拶・フォーラムの趣旨説明

(録音の同意をいただいて、録音開始)

(総合 F) それでは、これから「第1回フォーラム」を始めさせていただきます。

はじめに、このフォーラムの運営責任者であります木村浩からお話をさせていただきます。

(木村) 皆様、改めまして、本日はフォーラムにご参加いただきまして、まことにありがとうございます。これから隔週で5回ということで、長いフォーラムになりますけれども、よいものにしていきたいと考えておりますので、ご協力よろしくお願ひいたします。

早速ですが、お手元の資料の中に「フォーラムへの協力のお願ひ」というものがあると思います。こちらをご覧ください。この資料の中には、他に3種類の資料がはさんであると思います。平成25年度第1回フォーラム開催のお知らせと、本日フォーラムに参加していただく方々の一覧、そしてアンケートがあります。こちらのアンケートは後ほど使わせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、まずは挨拶とフォーラムの趣旨説明ということですが、先ほど「フォーラムへのご協力のお願ひ」の1ページ目を見ていただければと思います。

このフォーラムは、文部科学省の原子力基礎基盤戦略研究イニシアティブというプロジェクトに応募をして、こちらからお金をいただいて実施させていただいている研究活動の一環ということになります。その研究活動が、「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行」ということで、グループを組んで取り組んでおります。私は、研究代表者の、NPO法人パブリック・アウトリーチの木村と申します。よろしくお願ひいたします。昨年度までは東京大学だったのでありますが、こちらのプロジェクトに取り組んでいくにあたって、いろいろ考えた結果、東大を辞め、NPOとしてしっかり皆様と向き合っていきたいと思ひまして、NPOに立場を変えました。

研究の目的ですが、我々がこの研究を思ひついた背景は、「原子カムラ」という言葉だったのである。この言葉については、いろいろお聞きになった方もいらっしゃる、そうでもない方もいらっしゃると思ひますが、例えば、こちらに書いてある通り、マスメディアやインターネットなどで、原子力発電、原子力政策などに関わっている人たちのことをひとくくりにして呼ぶような言葉として使われている。この言葉が何を表しているか、ということはそもそもまだ明確にされていないのです。ただ、こういうもの

があることによって、原子力に携わっている人たちとそうでない人たちの間のギャップが大きくなっているような気がしまして、このギャップをどうにか埋めたいと思い、この研究を始めた次第です。

ここで、「原子カムラを越える」ではなくて、「原子カムラの境界を越える」と表現したのは、そういうギャップをなんとか埋めるようなことができないだろうかということにつけさせていただいた研究題目ということになります。

私の専門はリスク・コミュニケーションで、社会と原子力の業界とをどうやってつないでいくのかということを中心に専門にしていたという背景もありまして、では、原子カムラと呼ばれるようなこのギャップも、コミュニケーションを通して、どうにか一歩踏み出すことができないだろうかということに企画したものがこの「フォーラム」でございます。

原子力を含むいろいろな話題を対等な立場で話し合うというようなコミュニケーションのフィールドをどうにか作れないだろうかということで、「フォーラム」を提案させていただいております。これを皆様と一緒にやりながら、かつ、どうしたらそのギャップを埋められるのかということをご一緒に考えて、原子力に限らず、将来のエネルギーをどのように考えていったらいいのかということをご一緒に考えるきっかけ、第一歩、そういう土壌を作ることから始めたい。それが、この研究プロジェクトの大きな目的です。

そのために、皆さんには今日から 5 回のフォーラムに参加をしていただきたいと思います。そもそもこういうプログラム自体が、なかなか今まで行われてきておりませんでしたので、かなり試行錯誤でやっております。そういう中で、皆様と一緒にこのフォーラムを作っていきたいと思っておりますので、ぜひいろいろご意見を言っていただいたり、また、いたらないところもご指摘していただいて、よいものにしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、挨拶としてはこのくらいにしたいと思います。どうもありがとうございました。(拍手)